

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	40	学校名	東濃実業高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域の産業教育を担う高校として 地域や企業、大学等と協働した主体的、専門的、実践的な学びを通して グローバルな視点で力強く生き抜く人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	◎地域の未来を創出する人材の育成 他者とのかかわりを通して自己を見つめ、豊かな人間性を備えるとともに、確かな教養に裏付けされた専門的知識・技術を有し、地域の未来を見据えて主体的に学び続ける人材を育成します。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 将来のリーダーに必要な、公共の精神と対話力・コミュニケーション力を身に付け、仲間と協力して課題解決することができる生徒（うごかす力） 基礎学力を着実に身に付け、自分自身の未来を見据えながら自ら学び続ける意欲を身に付けた生徒（つなぐ力） グローバルな視点で地域社会の将来を展望し、商業、生活産業の各分野で、スペシャリストとして活躍する力を身に付けた生徒（つくりだす力） 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの個性や適性に応じた学びを実現するためのカリキュラム編成ときめ細やかな指導の実施 ICTを活用し、自ら学び続ける意欲を持たせるための「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進 SDGsを意識し、変化する産業構造を見据えながら、地域の大学や産業界との連携、協働による実践的な専門教育を推進 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や生徒会活動を含めた学校でのあらゆる活動を通して、自己を見つめ、仲間と協働し、人間性を高めようとする生徒 向上心を持ち、自ら学び続けようとする主体性のある生徒 商業・生活産業に関わる学習内容に興味があり、地域社会で活躍する「夢」に向かって努力する意欲のある生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係が希薄であり、コミュニケーションの苦手な生徒の増加 相手の気持ちが理解できない 集団になじまない 学習習慣が定着しておらず、高等学校での学びに対応できない生徒の増加 日本語を理解できない生徒の増加 支援員不足 広報活動の充実 学校の魅力が中学生、保護者に伝わらない 公共交通機関の廃止 通学の不便さ 志願者の減少 職員の多忙化の解消 制度は整ってきたが活用できない現実 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	生徒指導	うごかす力（心豊かな人間性）の育成 人権教育の推進を図り、他者との協同・協調活動を通じて、自他を大切に。あらゆる活動を通じて、対話力・コミュニケーション力を高め、リーダーシップを醸成する。	
	進路指導	つなぐ力（自ら学ぶ力）の育成 基礎学力の定着を図り、将来を展望し、主体的・対話的で深い学びを通して、自ら学び続ける意欲を身に付けた生徒を育成する。	
	学習指導	つくりだす力（専門的知識・技術）の育成 商業、生活産業のスペシャリストとして将来活躍できる力を身に付けさせ、グローバルな視点で地域社会の将来を展望し、力を尽くすことができる生徒を育成する。	
	学校経営	RISE 地域とともに挑戦し、学び、進化し、未来を創る 魅力ある教育活動の発信 生徒も職員も通いたくなる学校。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
生徒指導	教育相談の充実 ・生徒一人一人に寄り添い、心の成長や発達に繋がるよう支援	施策Ⅰ-1	年2回の教育相談週間の実施 SC、S相との連携強化 諸事案への早期対応	<ul style="list-style-type: none"> SOS教育：オンライン実施。 スクエアドストリート交通安全教室：事故再現+安全講話。 ヘルメット着用推進キャンペーン：PTA・地域と連携。 校則改訂（セーター登下校）：試行運用→改訂へ 制服シャツ変更：新仕様検討中。 ポロシャツ導入：令和8年度導入準備中。 人権講話：演奏+講話。 職員研修：発達障がい理解研修、SC研修。 	A	【成果】 ・SOS教育、人権講話、交通安全教室を計画通り実施し、安全・人権意識が向上。 ・セーター登下校の試行は良好で正式運用へ。 ・制服シャツ仕様見直しとポロシャツ導入を決定し、快適性・衛生面を改善。 ・発達障がい理解、スクールカウンセラー研修で相談対応力を強化。 ・ヘルメット着用推進キャンペーンを継続。スクエアドストリート教室で交通安全意識を高めた。 【課題】 ・スマホ利用増加に伴う情報モラル指導の継続、ヘルメット着用率向上、ライフスキル教室の参加拡大。 ・SNSでの悪口・告げ口。生徒間トラブルの火種になりやすく、情報モラル指導の継続が必要。	B
	交通安全指導 ・職員・生徒の交通安全意識向上	施策Ⅲ-19	ヘルメット着用率の向上 MSリーダーズ加入者増加				
	校則の見直し ・社会環境の変化に適切に対応し、自ら判断し行動できる力を身につける	施策Ⅰ-7	生徒・保護者・地域に受け入れられる校則				
	人権尊重の価値観や態度 ・認めて、褒めて、伸ばす指導	施策Ⅰ-2	心のケアや差別・偏見を意識し、教育相談的な対応 あずさカードの発行				
進路指導	生徒の主体的で前向きな進路選択・決定のための支援 ・適切な情報提供を行い、学年に応じた段階的な支援	施策Ⅳ-23	進路に関するLHRの実回数年間10回以上	<ul style="list-style-type: none"> 各学年年間2回（第2学年は3回）の進路講話を含む、進路に関するLHRを15回行い、生徒へ進路決定への意識付けを行った。 キャリア・パスポートとしてデジタルツールを利用したが、年間を通してこまめな学びの記録・振り返りをさせることができなかった。 進路LHRでは、ワークシートによる「自分を知る」「人間関係をつくる」などのテーマの取り組み、また2年生は夏休みの課題として「社会人インタビュー」を行い発表会をするなど、単なる就職先・進学先の選択ではなく、自己を見つめ直し、将来と現実を考えさせることができた。 小論文指導、面接指導、インターンシップ対応を全職員にお願いし、行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度内には、進路希望の実現がなされる予定である。一般企業就職者は38人中1人だけ不採用であった。全体の73%の進学者のうち、39%は総合型(AO)選抜である。早めに自ら動き進学先を決めていく生徒が多い。その反面、推薦型選抜、特に指定校推薦を考えている生徒の取り組みがよくない、合格できるという安易な考えで、学習や面接、小論文対策への取り組みが遅い上、努力も足りない。来年度はその生徒だけ取り、強く指導する。 進路LHRや、2年生の「社会人インタビュー」など、生徒は概ね真面目に取り組んでいた。 キャリア・パスポートとしてのデジタルツールの活用を計画的に全職員で行っていく。 	
	ポートフォリオの活用 ・学びの記録を見返し、進路選択と自己分析、自己実現をさせる	施策Ⅳ-24	進路希望100%実現				
	生徒が自己の在り方生き方を考えられる支援 ・ワークシートや進路の手引き、外部講師を活用したLHR	施策Ⅱ-13	ワークシートを活用し、生徒の意識を確認する				
	全職員による支援体制 ・小論文、面接、インターンシップ、卒業生と語る会等の実施	施策Ⅰ-1	インターンシップ先からの評価及び自己評価				
学習指導	授業力向上に向けての研修 ・公開授業の振り返り等を教員間で共有できる仕組みづくり	施策Ⅳ-26	各教科研究授業の実施（教科研究授業・教科研修会の実施）	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業3回実施+全教員年2回以上実施（公開授業週間年2回） 岐阜県ふるさと教育週間学校公開（公開授業）実施12人参加 授業評価アンケートで「授業に満足している」■94.0% 家庭学習毎日1時間以上40%以上■37.1% 定期考査における成績不振生徒（素点）■11.6% SNS（instagram）による情報発信（受験希望者獲得）、運用・管理 学校紹介パンフレット、うちわの作成（公式SNSとの連動） 中学生へ配付 中学校説明会13校、高校見学10校、キャリア・チャレンジDay4日実施（0C449人、体験入学218人、産業フェア） 	B	<ul style="list-style-type: none"> 観点別学習状況評価を行う場面（単元や題材）の研修の機会となっている。 公開授業週間は振り返り等を教員間で共有できる仕組みづくりが必要である。 生徒の学力幅が大きい中での授業、生徒個々に合った指導が必要である。 学ぶ意欲を引き出し、生徒の能力・適正や興味・関心の多様化に対応している。 家庭での学習習慣の確立・学習意欲の低下 長期休暇（夏季休業、自宅学習期間、春季休業）の学習習慣の確立 生徒の学びの事実を分析・検討・協議し、有効な指導を考える。 東実第一志望率を向上させるための魅力発信方法の研究、実践 	
	アクティブラーニング&生徒の言語活動を一層充実 ・生徒の学びの事実を分析・検討・協議し、有効な指導を考える	施策Ⅳ-23	授業評価アンケートで「授業に満足している」90%以上				
	個別最適化を目指した学習指導 ・基礎基本重視と基礎学力定着。学習習慣の確立	施策Ⅱ-8	定期考査における成績不振生徒5%以内				
	東実の魅力発信方法の研究、実践 ・ホームページの充実。SNSの積極活用	施策Ⅳ-20	志願者1.5倍（R7年度比較）				
学校経営	R 地域とつながり、支え合う学校 地域と「共創」する学び舎	施策Ⅰ-4	地域を知り、つながる努力 積極的情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校公式Instagramによる情報発信。 学習成果発表会の開催。3年間の学びの集大成を発表。 コミュニティラジオによる情報発信。生の声を地域に。 出前講座の実施。専門の学びを地域へ還元。プログラミング教室、ミシン講座、調理実習、生成AI教室等を実施。 地域産業の担い手事業への参加。役場、地域、大学等との連携。 商品開発、イベントの企画・運営。積極的に関わる姿勢の育成。 地域イベントへの参加。多くの生徒が地元のお祭りや運動会にボランティアとして自主的に協力。 	B	<ul style="list-style-type: none"> Instagramによる情報発信は概ね好評であった。更なる内容の充実をはかるとともに、担当者の負担減に努めたい。 生徒・職員共に、愛校心を持ち、責任と誇りを持った情報発信をおこなう。 御嵩町役場との連携を維持するとともに、可茂地域一帯の課題解決に取り組むことも考えたい。 生徒はボランティア活動に積極的に取り組んでいるが、部活動や学校生活とのバランスをうまくとらせたい。 各学科とも地域とのかかわりを積極的に持つ努力をしているが、通常授業との兼ね合いなど課題もある。 魅力ある学校となるための学校経営の工夫。 	
	I 新しい時代を切り拓く力を育む 挑戦できる環境で、未来を創る力を育む	施策Ⅱ-10	ICT機器の積極的活用 探求活動の充実				
	S 何事にも前向きに取り組む力 挑戦心と困難に立ち向かう強さを育む	施策Ⅱ-12	地域の課題解決に向け共に解決策を考える				
	E 人を支え、社会に貢献する力を身につける 自ら学び、他者にも力を与える人材へ	施策Ⅳ-20	ボランティア活動への参加 人権意識の向上				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月13日

<ul style="list-style-type: none"> 悪口・誹謗中傷・告げ口行為が人権侵害になることをLHRや人権講話で説明。生徒参加型（グループワークや意見交換）も検討。 ヘルメット着用率向上。SNS発信でも啓発。 入学式時、頭髮の色、ピアス穴などの申し出の徹底。制服、セーターなどのリサイクル使用の場合の申し出の徹底。 キャリア・パスポートとしてのデジタルツールの活用。教員研修を充実させ、積極的に活用を呼び掛け。 LHRや進路講話により、生徒の進路意識を高め、積極的な学校生活を送れるよう支援。 生徒が自身の生き方を見つめなおす機会を増やし、生徒同士がコミュニケーションをとる機会の設定。 校長のリーダーシップの下、職員の意識改革をはかり、個の力に頼らない組織を構築。 力を最大限に発揮できる人材配置の検討、および職場環境の整備。 鮮度の高い情報をタイミングよく発信。多角度からの切り口を検討し、多くの担当者を育成。 学校説明会、学校見学等を充実させ、中学生とその保護者に対して、積極的に東実の魅力のアピールする。 地域社会の声を聞く機会を充実させ、地域の中の学校としての地位を確立させる。

学校関係者評価

実施日：令和8年1月22日

<ul style="list-style-type: none"> 地域と学校が連携して課題解決に向けて動く仕組みが確実に機能しており、協働による学校づくりが着実に進んでいる。 学校運営協議会からの意見を契機として、校則改正が迅速に行われたことに感動した。 PTAや学校運営協議会が連携し、よりよい学びにつながる設備や環境の整備を進めていけるとよい。 学習成果発表会は3年間の学びのプロセスがよく伝わる発表であった。1・2年生にとっても自分たちの現在値を確認し、次の学びにつなげるよい機会であった。 学校の教職員だけでなく外部講師の指導も取り入れた深い学びができています。今後も多様な視点から講師選定をするとうい。 情報発信の工夫は継続課題。 御嵩町や伏見地区が主催する行事に積極的に参加している。今後も町の良さを学ぶ機会としてほしい。 学科やコース間の連携を深め、学科の枠を超えたグループを編成して協働の活動を増やしてはどうか。
--